

エコアクション 2 1

環境経営レポート

活動期間：2022年4月～2023年3月

2022年度



千葉スバル株式会社

発行日：2023年06月30日

目 次

1. 会社概要		3
2. 環境経営方針		6
3. 環境経営目標		7
4. 環境経営の成果		8
5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価		9
6. 環境改善活動・社会貢献活動		10
7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び 評価の結果並びに違反、訴訟等の有無		12
8. 代表者による評価と見直し		12
9. 経営におけるチャンスと課題		12
10. 次年度以降の環境経営目標		13

(1) 事業所名

千葉スバル株式会社

(2) 所在地

千葉県千葉市美浜区新港176-2

※ 店舗については(8)『EA21対象店舗一覧』を参照



(3) 代表者氏名

代表取締役社長 三浦 剛

(4) 環境管理責任者及びEA21事務局連絡先

環境管理責任者 推進事務局	構造改革推進部 部長	高橋 康
本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	高橋 克徳
本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	高橋 伸一
本社	構造改革推進部・安心ビジネスサポート課	山下 友実子

連絡先	電話	043-243-2291
	FAX	043-203-0120
URL	http://www.chibasubaru.com/	

(5) 事業の内容

新車・中古車の販売
部品・用品の販売
点検・整備

钣金塗装
自動車リース
損害保険代理店業務

(6) 事業の規模

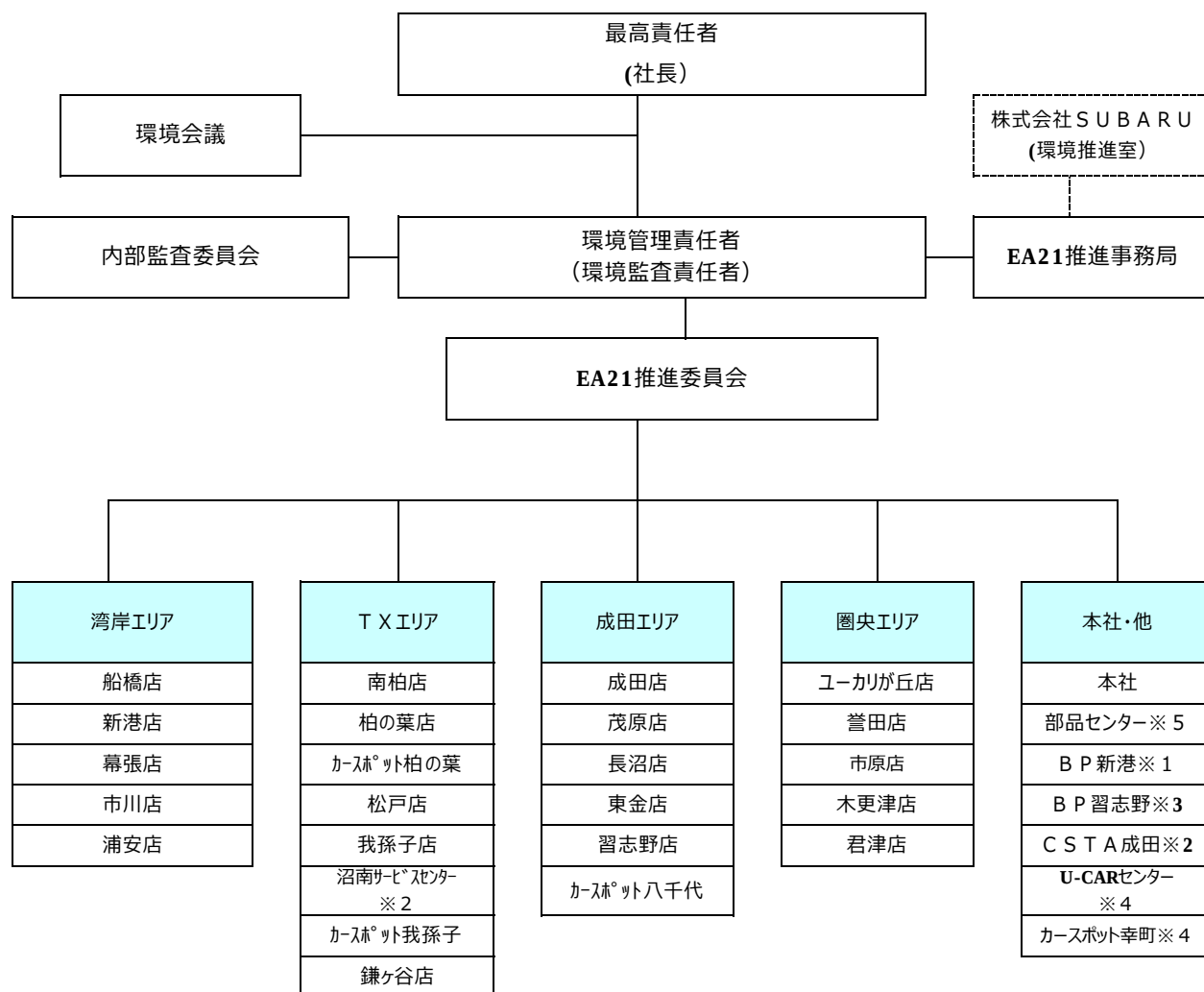
・新車販売台数	4,517台 (2022年度)
・中古車販売台数	3,257台 (2022年度)
・社員数 (派遣・パート等含む)	535名 (2023年3月末現在)
・店舗数	
本社	1
新車販売	20
中古車販売	4
その他	4

※ (1) ~ (5) は2023年6月30日現在

※ (6) は2022年3月31日現在

(7) E A 2 1 推進組織図

※ 千葉スバル株式会社は全事業所・全部門にて
エコアクション21に取り組んでいます。



- ※1 ※3 : 板金工場
 ※2 : 整備工場のみ (販売業務なし)
 ※4 : U-CARセンター (販売業務なし)
 ※5 : 部品販売業務

※株式会社SUBARUは弊社EA21の対象組織ではありませんが、グルート会社のトップとして支援を頂いています。

※店舗推進員: 店舗責任者 (店長) および店舗責任者を補佐し、自部署の環境活動を指導し推進についてはサービス課長 (整備工場長) が担当

2023年3月末現在

(8) EA21対象店舗一覧

千葉スバル株式会社は全組織・全活動を対象としてエコアクション21に取り組んでいます。

事業所名	郵便番号	住 所	責任者	電話番号	FAX番号	面積(坪)		工場 資格	正社員				非正規	総合計	組織区分	
						土地	建物		セールス	メカニック	その他	総数				
1 本社(部品センター 含む)	261-0002	千葉市美浜区新港176-2	間野 英雄	043-243-2292	043-203-0120	2507.8	1014.9	－	4		98	102	6	108	A	
2 新港店			景山 直人		043-238-1350			指定	11	11	7	29	2	31	C	
3 B P 新港			佐藤 剛		043-238-1351					6	2	8		8	E	
4 カースポット幸町	261-0001	千葉市美浜区幸町2-20-31	根本 雅之	043-243-1321	043-243-2625	754.2	176.3	－		8	8			8	B	
5 幕張店	262-0032	千葉市花見川区幕張町5-417-354	大関 貴弘	043-213-3800	043-213-3805	1001.8	458.5	指定	5	5	5	15	1	16	C	
6 松戸店	271-0053	松戸市中根156-1	西村 剛史	047-363-6111	047-330-1187	1000.5	490.2	指定	7	6	6	19	1	20	C	
7 柏の葉店	277-0814	柏市正連寺406-3中央134街区4	谷 勇輝	04-7133-7231	04-7140-8054	926.9	193.7	指定	8	7	7	22	1	23	C	
8 南柏店	277-0856	柏市新富町1-1-11	中野 英幸	04-7147-5900	04-7147-5905	931.8	333.7	指定	5	5	5	15	2	17	C	
9 我孫子店	270-1152	我孫子市寿2-25-47	神谷 剛	04-7185-5050	04-7181-1137	317.3	121.2	－	4	1	4	9	1	10	C	
10 沼南サービスセンター	277-0922	柏市大島田127	久保田 治	04-7193-3700	04-7193-3710	223.0	109.8	指定		4	1	5	1	6	D	
11 カースポット我孫子	270-1177	我孫子市柴崎34-2	押切 裕之	04-7183-0611	04-7183-7282	1009.9	60.5	認証	3	1	1	5	1	6	C	
12 市川店	272-0015	市川市鬼高4-7-5	玉垣 貴宏	047-378-1261	047-320-3241	1397.0	837.4	指定	8	10	11	29	3	32	C	
13 浦安店	279-0002	浦安市北栄4-20-8	吉岡 一貴	047-353-2111	047-390-6450	436.0	260.9	指定	6	7	4	17	1	18	C	
14 船橋店	273-0001	船橋市市場2-9-19	木村 直登	047-423-6631	047-426-8320	657.8	196.9	指定	6		2	8		8	C	
15 鎌ヶ谷店	273-0115	鎌ヶ谷市東道野辺5-9-19	伊沢 太郎	047-442-1211	047-498-5055	1076.9	524.0	指定	5	8	8	21	1	22	C	
16 習志野店	275-0001	習志野市東習志野6-16-43	渡邊 正洋	047-473-2171	047-470-1455	1001.0	481.3	指定	6	6	7	19	1	20	C	
17 B P 習志野			池田 公紀							6	2	8	1	9	E	
18 カースポット八千代	276-0036	八千代市高津東4-7-11	廣田 芳和	047-487-0486	047-487-0520	609.1	67.6	認証	2	1	2	5	1	6	C	
19 市原店	290-0050	市原市更級2-3-1	菊地 猛	0436-37-1221	0436-20-1121	1326.0	595.0	指定	7	6	6	19	3	22	C	
20 木更津店	292-0014	木更津市高柳952	眞坂 貴吉	0438-23-0321	0438-20-1039	674.4	193.6	指定	5	4	5	14	2	16	C	
21 君津店	299-1163	君津市圭師4-2-7	友利 和正	0439-55-7200	0439-50-1288	486.2	137.0	指定	4	3	4	11	1	12	C	
22 茂原店	297-0074	茂原市小林1732	下川 久幸	0475-22-5271	0475-20-1090	633.3	209.4	指定	4	5	5	14	1	15	C	
23 東金店	289-1327	山武市姫島141-1	戸井 義人	0475-82-7221	0475-80-1005	592.5	167.1	指定	5	4	5	14	2	16	C	
24 長沼店	263-0001	千葉市稲毛区長沼原町725	松崎 陽祐	043-250-3791	043-298-9045	633.4	342.7	指定	6	5	6	17	2	19	C	
25 ユーカリが丘店	285-0850	佐倉市西ユーカリが丘6-3-5	平野 敦史	043-462-5500	043-460-1575	827.7	775.2	指定	6	5	6	17	1	18	C	
26 成田店	286-0221	富里市七栄525-1	小野寺 猛	0476-37-3250	0476-37-3251	1478.3	808.0	指定	9	8	8	25	2	27	C	
27 誉田店	266-0005	千葉市緑区誉田町1-392-3	高橋 康	043-292-6601	043-226-9032	429.9	178.0	指定	4	4	4	12	1	13	C	
28 カースポット柏の葉	277-0871	柏市若葉9 1－1 6	小林 満	04-7199-7007	04-7199-7027	1984.7	761.9	認証	1		1	2		2	C	
29 千葉スバルテクノアカデミア	286-0046	成田市飯仲11-31	岡本 武司	0476-36-8220	0476-36-8344	1032.1	210.5	認証		5	1	6	1	7	D	
									総合計	131	133	231	495	40	535	

※社員数は2023年3月末現在

- 組織区分の意味
- A=オフィス業務(事務所業務)
- B=オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）
- C=オフィス業務＋自動車販売（新車、中古車）＋整備業務
- D=オフィス業務＋整備業務
- E=オフィス業務＋鈑金塗装

(9)「認証登録の範囲（組織・活動）」

認証・登録番号：0006212
認証・登録年月日：2010年11月18日
認証・登録事業者名：千葉スバル株式会社
対象事業所名：（8）「EA21対象店舗一覧」を参照
所在地：千葉県千葉市美浜区新港176-2
事業活動内容：新車・中古車の販売、部品・用品の販売、点検・整備、鈑金塗装、自動車リース、損害保険代理店業務

2. 環境経営方針

環境経営方針

《基本理念》

私たちはSUBARUが持つ価値を当社に関わる全ての方に提供することで豊かな社会を作りたいと考えます。そのために欠かせない環境負荷軽減活動に全社員で取り組み、企業価値を上げることで愛される千葉スバルを目指します。

《基本方針》

この理念のもと、当社が行う自動車及び部品の販売、サービス・保険業務に関する事業活動が環境に与える影響を考慮し、以下の環境保全活動を推進します。

1. 事業活動の全領域で、省資源、省エネルギー（CO₂削減を含む）、リサイクル、公害防止に配慮した活動を行います。
2. 環境汚染を未然に防止すると共に、環境マネジメントシステムと環境パフォーマンスが継続的に改善できるように推進します。
3. 適用する環境関連の法規制、条例、及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
4. 環境に配慮した自動車（新車・U-car）販売と、良質なサービスを提供する事で環境負荷の低減を進めます。
5. この環境方針を全社員に周知し、教育活動を推進します。

2010 年4月1日 制定
(2023 年4月1日 改訂)
千葉スバル株式会社
代表取締役社長 三浦 剛

3. 環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(1) 環境負荷状況

項目	年度	単位	2022年実績
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kWh	2,741,976
	CO2排出量	kg-CO2	0.00
	ガソリン	L	92,007.9
	CO2排出量	kg-CO2	213,458
	灯油	L	599.9
	CO2排出量	kg-CO2	1,494
	軽油	L	35,391
	CO2排出量	kg-CO2	91,309
② 水使用量の削減	L P G	kg	15,222
	CO2排出量	kg-CO2	24,507
	都市ガス	m³	179,995
③ 産業廃棄物排出量の削減	CO2排出量	kg-CO2	401,389
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	732,157
④ 事業における環境配慮推進			
a) 車検カバー率	%		72.1
b) IoT販売促進 ※新車装着含まず	本数		16,273
c) 運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	台数		1,670

※化学物質は維持管理を実施している。



【CO2排出係数 / 調整後係数】
 【電気】0kg-CO2/kWh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入
 【ガソリン】2.32 kg-CO2/kL・【灯油】2.49 kg-CO2/L
 【軽油】2.58 kg-CO2/L
 【LPG】1.61 kg-CO2/kg・【都市ガス】2.23 kg CO2/m3
 ※排出係数は基準年度と同係数で統一

(2) 環境経営目標

項目	年度	単位	2021年度実績	2022年目標基準	2022年度目標	2023年度目標
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kWh	2,594,389	店舗の傾向により目標を設定	2,765,267	2,787,366
	CO2排出量	kg-CO2	0		0	0
	ガソリン	L	80,038.0		87,120	95,208
	CO2排出量	kg-CO2	185,688		202,118	220,883
	灯油	L	737.0		679	737
	CO2排出量	kg-CO2	1,836		1,691	1,835
	軽油	L	17,487		33,858	34,125
	CO2排出量	kg-CO2	45,116		87,354	88,043
② 水使用量の削減	L P G	kg	28,574	店舗実績毎に設定	20,988	18,372
	CO2排出量	kg-CO2	46,004		33,791	29,579
	都市ガス	m³	213,263		199,145	201,189
③ 産業廃棄物排出量の削減	CO2排出量	kg-CO2	475,576		444,093	448,651
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	754,220		769,047	788,990
④ 環境事業配に慮おける						
a) 車検カバー率	%		72.0	店舗実績毎に設定	80.0	80.0
b) IoT販売促進 ※新車装着含まず	本数		14,928		18,000	18,000
c) 運転支援システムEyeSight 搭載車の販売促進	台数		5,520		—	—
c) e-BOXER(2021年度) 搭載車の販売促進	台数		—		1,692	2,744

※コロナ禍の影響が続き削減が見込めない為、2022年度及び2023年度目標については前年実績をベースに店舗の傾向別に目標設定し取組む。

※④ C)については、2019年・2020年・2021年：e-Boxer販売促進/2022年・2023年：e-BOXER及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

4. 環境経営の成果

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量ゼロの再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

※項目①②③は目標比とし90.0%以下は“◎”、95.0%以下は○、100.0%以下は“△”それ以外は×とする。

※項目④は達成率とし◎110%以上達成、○100%以上達成、△95%以上で少々未達、×94%以下で未達】

(1) 環境負荷実績

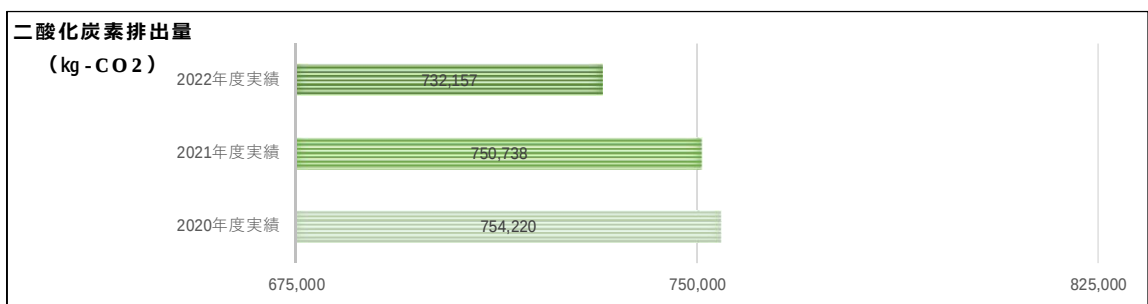
項 目	年 度	単 位	2021年度実績	2022年目標	2022年度の環境負荷の状況		
					2022年度実績	対目標比率&判定	
① 二酸化炭素排出量の削減	電気使用量	kWh	2,654,302	2,765,267	2,741,976	99.2%	△
	CO2排出量	kg-CO2	0	0	0		
	ガソリン	L	88,291	87,120	92,007.9	105.6%	×
	CO2排出量	kg-CO2	204,835	202,118	213,458		
	灯油	L	664	679	599.9	88.4%	◎
	CO2排出量	kg-CO2	1,653	1,691	1,494		
	軽油	L	20,957	33,858	35,391	104.5%	×
② 水使用量の削減	CO2排出量	kg-CO2	54,068	87,354	91,309		
	LPG	kg	21,074	20,988	15,222	72.5%	◎
	CO2排出量	kg-CO2	33,928	33,791	24,507		
	都市ガス	m³	204,598	199,145	179,995	90.4%	○
	CO2排出量	kg-CO2	456,254	444,093	401,389		
	【二酸化炭素(CO2)排出量合計】	kg-CO2	750,738	769,047	732,157	95.2%	△
	③ 産業廃棄物排出量の削減	t	937	877	1,025	116.8%	×
環境配慮推進	a) 車検カバー率	%	72.1	80.0	72.1	90.1%	×
	b) IoT化販売促進 ※新車装着含まず	本数	16,299	18,000	16,273	90.4%	×
	c) e-BOXER(2021年度) 搭載車の販売促進	台数	1,373	1,692	1,670	98.7%	△

※④ a)については、カバー率80%で100%達成とする。

※④ C)については、2019年・2020年：EyeSightの販売促進/2021年：e-Boxer販売促進/2022年：e-BOXER及びソルテラ(電気自動車)の販売促進を推進。

※化学物質は維持管理を実施している。

(2) 千葉スバルのCO2総排出量推移



5. 環境経営計画の内容と取組結果の評価

項 目	活動内容	評価及び今後の取組
①二酸化炭素排出量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：コロナ禍の影響もあり、2022年度下期よりお客様の利便性を損なう働き方を徐々に見直した。これに伴い残業時間も増え、店舗のエネルギー使用量も増加した。 集計システム『D-SPECS』の活用は、事務局で集計・店舗へ実績開示は定着したが、店舗の改善に結びつけられる具体的なアドバイスに課題が残った。 啓発活動についても事業との結びつきを周知するには至らなかった。 今後：集計結果を基にして①結果分析方法の見直し ②改善活動内容の見直し ③社員の理解を高めるCO2削減ポイントの共有 を事務局主体で実施する。 事業活動しながらCO2削減が出来る様に、推進委員会や店舗巡回時に啓発活動を実施する。
電気使用量の削減	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入（LED化等） 3) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月） 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：上期の電気の使用量は、①顧客利便性を損なう働き方の見直しによる残業時間の増加 ②コロナ感染予防対応の為、施設の換気対応が習慣化した事による増加 ③工場エアコン導入数増加 が影響した。 下期は工場にエアコンを導入したことによる電気使用量の更なる増加が懸念されたが、シートシャッター使用による冷房効率向上の効果が計画よりも減少した。 今後：空調の温度管理、照明の利用範囲の見直しなど使用量削減に繋がる取り組みは、引き続き実施していく。 特に電気使用量削減に大きく影響する ①過度な温度・風量設定 ②無駄なシートシャッターの開放 については、現状を把握しながら適切に使用出来る様、店舗に伝えながら改善に繋げる。
燃料使用量の削減	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油) 4) 冷暖房の室温管理（都市ガス） 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用(都市ガス、LPG) 6) クールビズ期間の拡大（6月～9月⇒5月～10月）	評価：ガソリン使用量はコロナ禍前の状況に戻りつつあり、新型車の導入により店舗での試乗機会も増えてきたが無駄なアイドリングを防ぐ環境配慮を促した。また軽油は雪害修理車回送が続いた事に加え、店舗工場の整備効率を上げるための重整備センターが稼働した事やU-CARの小売増に伴い、車両回送が増え軽油使用量が増加した。 空調関連については、エアコン設備入れ替え時に省エネタイプの機器を選び、大幅なガス使用量削減に寄与出来た。 今後：化石燃料の使用量は、重整備センター・U-CARの回送集約・ルート見直し・効率の良い回送スケジュールを行うことで環境に配慮した運用を目指す。また店舗リニューアルなどでエアコン入れ替えの際には省エネタイプの機器導入を行う事で、都市ガス使用量を継続的に削減していく。
②水使用量の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：車両販売や整備入庫の増加で水の使用量も増えると予測していたが、店舗の節水意識が高まったことで目標を達成出来た。 また新中併販でU-CAR展示車両の洗車が大幅増加する事による水使用量の増加も懸念したが、影響はなかった。 今後：2023年度から全店での新中併販がスタートしたため展示車両の洗車方法や節水意識の啓発しながら運用を行う。スプレーノズル等の積極的な使用も推進する。
③産業廃棄物の削減	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) マニフェスト管理台帳による日々の数量管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価：入庫量の増加と共に汚泥量も比例して増加した。一方で定期的な排水経路の清掃が行われるようになり、環境保全の意識は高まった。リコール等の影響で大型部品交換は継続しているが、廃棄物保管方法を周知し継続的な管理を推進した。 今後：蛍光灯や廃ガソリン、廃シンナーの処理に課題がある為、手順を示して適切な処理が出来るように管理を強化する。 電子マニフェストは、適正な運用が定着。引き続き運用の周知とフォローを行っていく。
④化学物質の管理推進	1) 法規制、社内基準の順守 2) シンナー、ラッカー等の必要以上の使用を削減 3) 含有材料の適正在庫の徹底 4) 事務局主体による啓発活動の強化	評価と今後：当社の板金整備が顧客や環境への高い安全性と品質を証明するためT U得認証取得をスタート。現状の課題を洗い出し迅速な改善を行い、2023年4月に認証を取得。今後は、サービス部品部・総務課と連携し、適正な化学物質管理や社員の健康管理が行える様に現場環境を定期的に点検・検証・改善を行う。
⑤事業における環境配慮	a)車検カバー率	評価と今後：ありたい姿を設定した目標に対しては、通期で未達となった。次年度以降も良質な整備の提案および環境性能の高い新型車を提案し、環境負荷軽減取り組みを推進することで、早期にありたい姿を実現する。
	b)エコタイヤ販売推進	評価と今後：お客様にとってもメリットがあるエコタイヤを積極的にご提供する事が出来た。今後もタイヤ性能における燃費向上をご案内して環境負荷軽減を進める。
	c)環境性能エンジン『e-BOXER』の販売促進	評価：お客様に安全性、環境性能をご理解いただき、環境負荷軽減に寄与する車をご提供出来た。 今後：新車のみならず良質なU-CARも提供する事で、安全で環境性能の高いSUBARU車を提供していく。

6-1. 環境改善活動

【本社3階フロア 新空調ユニット】



【コントロールパネルにより一括管理・実績確認が可能】



新店舗建設や店舗リニューアルの際、環境負荷軽減に寄与する空調設備を積極的に導入。
2022年度は、老朽化の為にガス使用量が増加傾向だった本社・新港店のエアコン入れ替えを実施。
今回、省エネ性能に優れたハイブリッドエアコン（電気から稼働し、ガスにて運転主働）を導入。
冷暖房のこまめな制御を行い、温度を効率良く保つことで、大幅なCO2削減効果が得られました。



2022年度も地球温暖化防止の一環として、環境省のクールビズ期間(5月～9月末)を10月末まで延長し地球温暖化防止に努めた。



ショールーム、事務所照明をLED化。
16店舗に導入し、電気使用量削減に繋がりました。
引き続き全店舗LED化へ努めます。



前年度より引き続き、各店舗工場出入口に自動開閉式シートシャッターの取り付けを行いました。
シートシャッターを取り付ける事で、冷暖房の抜け漏れが軽減され、工場内の温度を一定に保つことが出来、エアコン使用量も抑えられる事が確認出来ました。
今後も新店舗へのシャッター導入を計画し、更なるCO2削減に繋がります。

【2022年4月オープン 成田店】



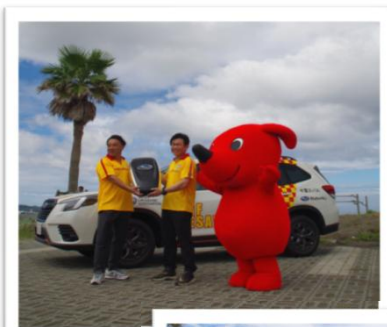
2022年4月 3店舗目となるオール電化店舗完成。
全社でもCO2排出量ゼロの再生可能エネルギー100%の電力を使用して、環境負荷軽減に取り組みました。



産業廃棄物処理に必要な知識習得と理解を深める為『産業廃棄物適正処理管理士 3級』の資格を受験。
53名が合格し、適切な管理体制の強化を図りました。

6-2. 社会貢献活動

2022年度も少しでも多く、社会に貢献出来る様に取り組みを行いました。



日本赤十字の献血活動に協力。
今後も社会貢献活動の一環として活動を継続します。



海の安全・環境保全活動を行う
日本ライフセービング協会にAEDを搭載した車両を
提供し、活動強化支援を行いました。



2023年2月オープンのカースポット柏の葉の
屋外にAED設置しました。
昼夜問わず地域の皆さんも利用出来る様にしました。



SUBARUが目指している『自動車の安全性・環境性能』を学べる教材として、
県内の自動車大学校2校に車両の提供を行いました。
特に最先端の運転支援システム『アイサイト』搭載車両で、SUBARUの安全性と
環境軽減の取り組みを学生の皆さんにも広めました。



ビーチクリーン開始から3年目に入り、今年度からはお客様や内定者の方もご参加頂けるようになり定期開催となりました。
みんなで一丸となって海辺のクリーン活動を実施しております。
ビーチクリーン「海岸の清掃活動」に参加し、継続的に環境問題に取り組んでいます。

7. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果並びに違反、訴訟等の有無

(1) 適用となる主な環境関連法規（遵守評価 2023.6.30）

主な適用法規	要求事項	遵守状況
水質汚濁防止法	特定施設の届出（自動車自動洗浄装置等）	○
浄化槽法	浄化槽設置の届出、年1回の水質検査及び清掃 3-4回の保守点検の実施	○
下水道法	排水施設の設置義務、特定施設の届出	○
消防法	少量危険物貯蔵所の届出	○
フロン排出抑制法	フロン使用機器の適正管理	○
廃棄物処理法	廃棄物の適正処理、廃棄物処理業者との委託契約、 廃棄物の表示・保管管理、 電子マニフェストの集計・報告	○
騒音規制法	特定施設の届出 (コンプレッサー等)	○
振動規制法	特定施設の届出 (コンプレッサー等)	○
化管法（PRTR法）	特定化学物質の排出量・移動量の把握と記録、 基準値以上の取扱量の場合に行政に報告（少量の為不要）	○
自動車リサイクル法	使用済自動車の適正処理	○
自動車NOx、PM法	自動車排出NOx及びPM排出抑制に必要な措置、届出	○
以下は千葉県、各自治体の条例		
千葉県及び各市環境保全条例施行規則	特定施設「圧縮機」の規制対象出力（上乗せ条例）	○
千葉県ディーゼル条例	特定自動車の粒子状物質減少装置の装着	○

(2) 違反、訴訟等

当社における環境関連法規への違反はありません。なお、関係当局より違反等の指摘及び訴訟は過去3年間ありません。

8. 代表者による評価と見直し

2022年度は前年同様新型コロナウイルス感染拡大の影響で、半導体やその他部品の供給遅延が起き、新車受注から納車までの手番が長期化し、企業活動にも大きく影響した。またアフターコロナを想定し、店舗での待合や社員の控室では空調を効かせながら換気を行うなど、お客様や社員に対する影響を加味しながら、環境負荷を減らしつつ安全で効率的な企業活動を実行した1年であった。また『お客様・社会との繋がり』として①サービス基軸の活動で環境負荷を考慮し代替提案をしていく②新中併販のトライアルを推進することでより多くのお客様に豊かで安心安全なカーライフと環境負荷の低い車の提案を推進した。『働く環境改善』としては①工場へのシートシャッターを伴う冷房の設置②本社・店舗に環境性能の高いエアコンの設置などを行い、環境負荷低減を意識しつつ働く環境の整備を推進した。『千葉スバルの持続的な成長』には、千葉スバルビジョンと環境経営方針を幹部をはじめとした全社員が認識し、確実に活動していくことが必要である。2023年度においては環境負荷低減をこれまで以上に本質的な活動に深め、事業に取り組む。

9. 経営におけるチャンスと課題

千葉スバルがビジョンを実現するには環境経営方針に沿った活動をし、ステークホルダーから信頼され続けることが欠かせない。サービス基軸の活動で、車を常にベストコンディションで乗っていただくことや環境負荷低減を意識した代替提案をしていき、究つ最新の安心安全・先進機能の新車と上質なU-Carを提供し続けることで、ずっと千葉スバルをご愛顧いただけるお客様を増やしていく。課題は、コロナ禍による活動の制限が緩和した中で、顧客の利便性を向上させる事と環境負荷が増加することを適切に管理しながらお客様の満足につなげていくことであり、引き続き2023年度も『お客様・社会との繋がり』『働く環境改善』『千葉スバルの持続的な成長』を念頭に企業価値向上を重点課題として環境活動に取り組む。

また地域貢献の一環として「ビーチクリーン」「全社員のAED使用方法習得」「ライフセービングカー貸与」など積極的な地域貢献活動への参画が社員やステークホルダーのエンゲージに結びつき、地域社会との繋がりが強化されることで共に将来の世代にも持続可能な状態を維持できるということを念頭に活動を進める。

10. 次年度以降の環境経営目標

当社は地球環境に配慮し、CO2排出量の少ない再生可能エネルギー発電の電力会社より電力を購入しています。

(2) 環境経営目標

年 度 項 目		単位	2022年度 目標値 ※店舗ごとに 設定した 目標合計値	2023年度 目標値 (2022年度終了 後に2022年度 基準で目標設定 予定) (現時点では 2022年度目標 値比1%削減) (④目標は 個別設定)	2024年度 目標値 (2022年度終了 後に2022年度 基準で目標設定 予定) (現時点では 2022年度目標 値比2%削減) (④目標は 個別設定)	達成手段
① 二 酸 化 炭 素 排 出 量 の 削 減	電気使用量	kWh	2,765,267	2,737,614	2,709,962	1) 節電の取組み、冷暖房時の室温管理 2) 省電力の積極的な導入 (LED化等) 3) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月) 4) 労務管理強化による残業時間の削減 5) 事務局主体による啓発活動の強化
	CO2排出量	kg-CO2	0	0	0	
	ガソリン	L	89,286	88,393	87,500	1) 効率的な燃料(ガソリン、軽油)の使用 2) 来店型店舗の推進(ガソリン、軽油) 3) エコ運転の推進(ガソリン、軽油)
	CO2排出量	kg-CO2	207,144	205,072	203,001	4) 冷暖房の室温管理 (都市ガス) 5) 遠赤外線ヒーターの適正な使用 (都市ガス、LPG)
	灯油	L	679	672	665	6) クールビズ期間の拡大 (6月～9月⇒5月～10月)
	CO2排出量	kg-CO2	1,691	1,674	1,657	
	軽油	L	21,849	21,631	21,412	
	CO2排出量	kg-CO2	56,369	55,807	55,243	
	LPG	kg	20,988	20,778	20,568	
	CO2排出量	kg-CO2	33,791	33,453	33,115	
	都市ガス	m ³	199,300	197,307	195,314	
	CO2排出量	kg-CO2	444,440	439,995	435,550	
【二酸化炭素(CO2)排出量合計】		kg-CO2	743,434	736,000	728,566	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 事務局主体による啓発活動の強化 3) 結果分析方法や改善活動の見直し
②水使用量の削減		m ³	18,238	18,056	17,875	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) オフィスの節水活動推進 3) 洗車時の配慮 4) 事務局主体による啓発活動の強化
③産業廃棄物排出量の削減		t	877	869	860	1) 集計の確立、集計システムの活用 2) 電子マニフェストによる日々の実績管理 3) 不必要な部品交換の削減 4) 事務局主体による啓発活動の強化 5) 特別管理産業廃棄物の適切な管理及び処理
④ 環 境 業 配 に 慮 お 推 け 進 る	a) 車検カバー率	%	80%	80%	80%	1) 6か月毎の点検入庫促進活動の強化 2) 環境性能の高い車種への代替提案 3) 環境配慮した良質な整備メニューの提供
	b) IT活用販売促進 ※新車装着含まず	本数	18,000	18,000	18,000	1) 点検入庫機会を活用した 付加価値提案 (エコタイヤ)
	c) e-BOXER 搭載車の販売促進	台数	1,668	2,744	2,800	1) 環境性能エンジン『e-BOXER』 電気自動車『ソルテラ』の販売促進により環境負荷削減

※コロナ禍の影響が続き削減が見込めない為、2021年度実績をベースに目標設定し取組む。

但し、2022年度電気使用量については、ALL電化の新店舗がオープンした為、上乗せして目標を設定。

※化学物質は維持管理を実施している。

【CO2排出係数 / 調整後係数】

【電気】0kg-CO2/kWh (プレミアムゼロプラン) 2019年度より導入

【ガソリン】2.32 kg-CO2/kL ・【灯油】2.49 kg-CO2

【軽油】2.58 kg-CO2/L

【LPG】1.61 kg-CO2/ kg ・【都市ガス】2.23 kg CO2/m³

※排出係数は基準年度と同係数で統一

【次年度以降の目標】

※今後の店舗拡充による増加分は加味せず。

※対基準年：2023年度→1%減、対基準年：2024年度→2%減